

男性の家事・育児参画状況実態調査 報告書（概要版）

調査概要

- (1) 調査目的 未就学児の子を持つ当事者夫婦等の家事・育児分担に関する実態や男性の家事・育児参画について都民の意識等を調査し、今後の施策のための参考とする
- (2) 調査地域 東京都全域
- (3) 調査対象 東京都在住の18歳以上70歳未満の男女
- (4) 標本数 5,000標本
標本のうち、未就学児を持ち、かつ配偶者と同居している男性及び女性2,000名（男性1,000名、女性1,000名）
- (5) 標本抽出 重複を除いたモニター母集団の登録情報データベースを基に、18～69歳の東京都在住者のモニターを抽出した
- (6) 調査方法 WEBシステムを利用したインターネット調査
- (7) 調査時期 令和元年8月23日～令和元年8月29日
- (8) 回収結果

標本設計に基づき、以下の5,000件のサンプルを回収した。

【配偶者あり、未就学児ありの男女】

	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	計
男性	—	15	466	469	48	2	1,000
女性	—	118	658	223	1	—	1,000
計	—	133	1,124	692	49	2	2,000

【その他】

	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	計
男性	28	380	273	273	273	273	1,500
女性	90	318	273	273	273	273	1,500
計	118	698	546	546	546	546	3,000

- (1) 集計は、小数点第二位を四捨五入しているため、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しているため、複数回答の設問については、全ての比率を合計すると 100.0%を超える場合がある。
- (3) n は、基数となるべき実数であり、設問に対する回答者数である。
- (4) 「-」は、回答者がいないことを示す。
- (5) 「0」、「0.0」は、集計した結果、値は存在するが、表章単位未満である。
- (6) 「…」は、質問と矛盾するため回答ができない選択肢を示す。
- (7) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (8) クロス集計のグラフ内割合表記において、紙面の制約上省略しているもの（0.0%など）がある。
- (9) クロス集計による分析に際して、n が 50 未満の場合は基本的には分析対象外としている。
- (10) クロス集計の図表では、属性等を問う設問に無回答等がある場合、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

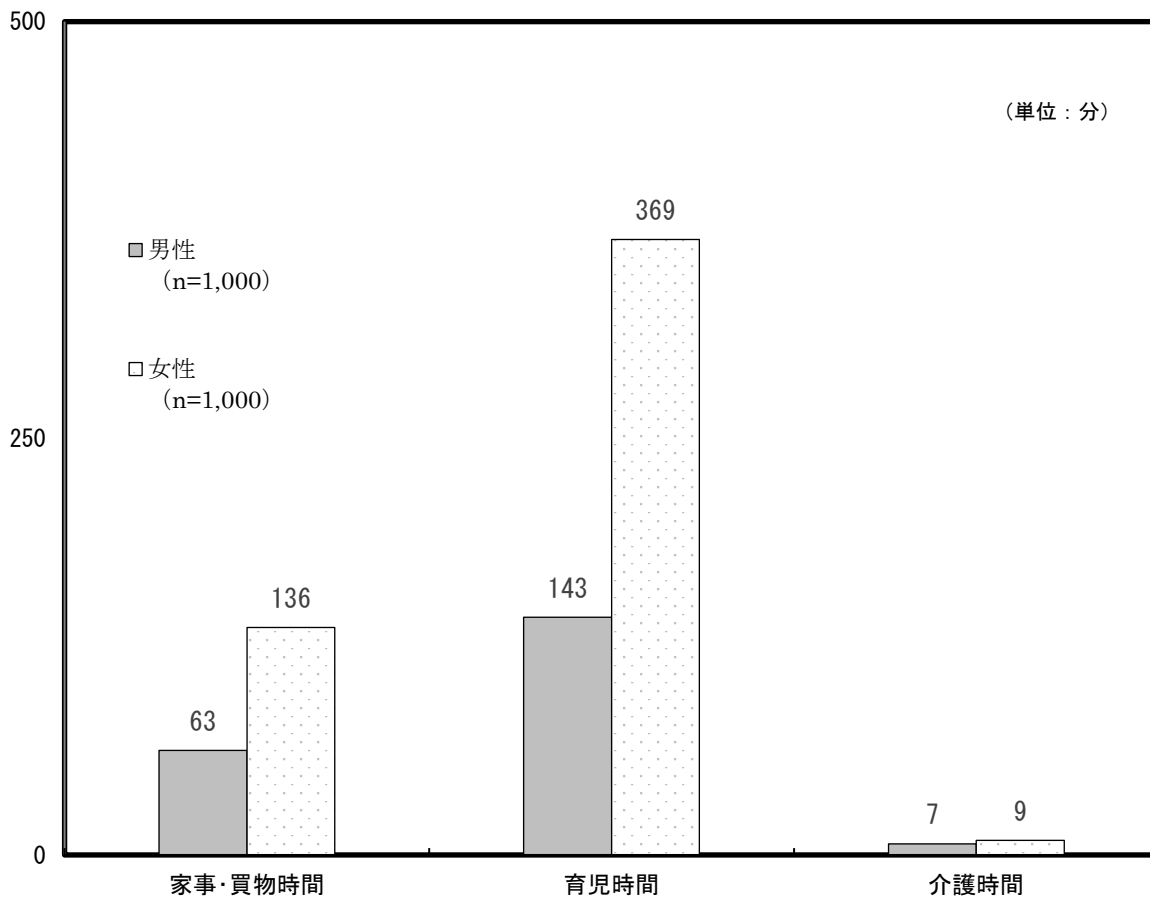
Ⅱ 調査結果

1 子育て世代の家事・育児関連時間【配偶者あり・未就学児あり】

子育て世代の女性の家事・育児時間は男性の2倍を超える

子育て世代（未就学児を持つ男女）の家事・育児関連時間を週全体平均で見ると男性の家事・買物時間 63 分、育児時間 143 分、介護時間 7 分に対し、女性の家事・買物時間 136 分、育児時間 369 分、介護時間 9 分と、子育て世代の女性の家事・育児関連時間は男性の2倍を超える。（図表 1-1）

図表 1 - 1 男女の家事・育児関連時間（週全体平均）【配偶者有・未就学児有】



週全体平均の算出方法（平日平均 × 5 + 土日平均 × 2） ÷ 7

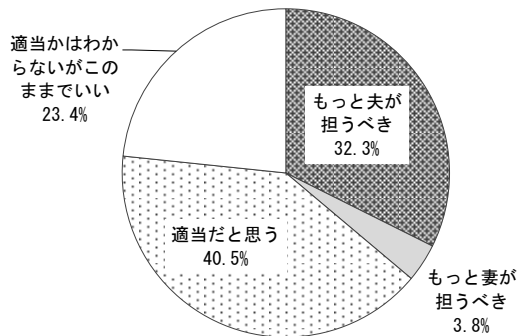
3 家事・育児分担割合についての考え【配偶者あり・未就学児あり】

家事・育児分担割合について「適当だと思う」、「このままでいい」の計が6割を超える

【家事】・【育児】分担割合についての考えを聞いたところ「適当だと思う」、「適当かはわからないがこのままでいい」の計は、【家事】・【育児】ともに6割を超える。(図表 3-1, 3-2)

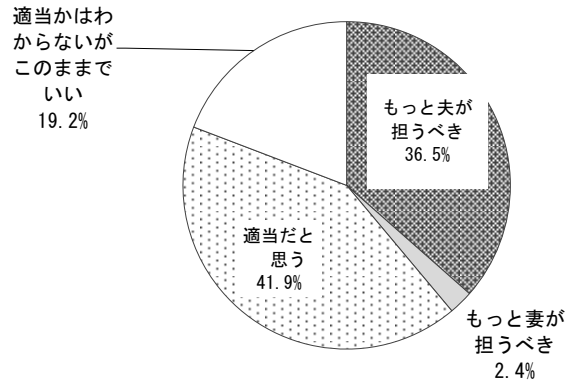
図表 3-1 家事分担割合についての考え【配偶者有】

(n=3,104)



図表 3-2 育児分担割合についての考え【配偶者有・未就学児有】

(n=2,000)



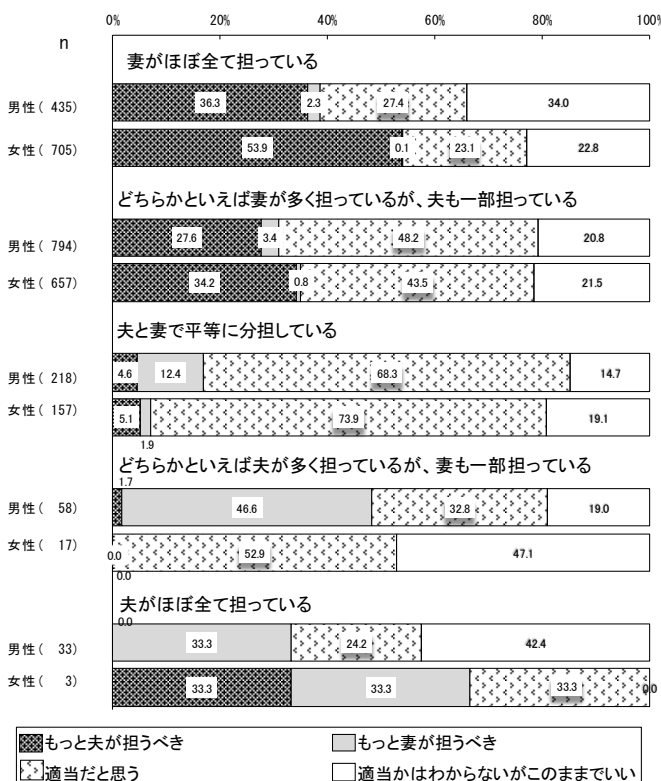
「妻がほぼ全て担っている」は、【家事】で53.9%、【育児】で60.4%の女性が「もっと夫が担うべき」と回答

【家事】、【育児】分担を「妻がほぼ全て担っている」と回答した男女のうち「もっと夫が担うべき」は【家事】は男性36.3%、女性は53.9%、【育児】は男性50.8%、女性60.4%となっており、ともに女性の回答が5割を超える。

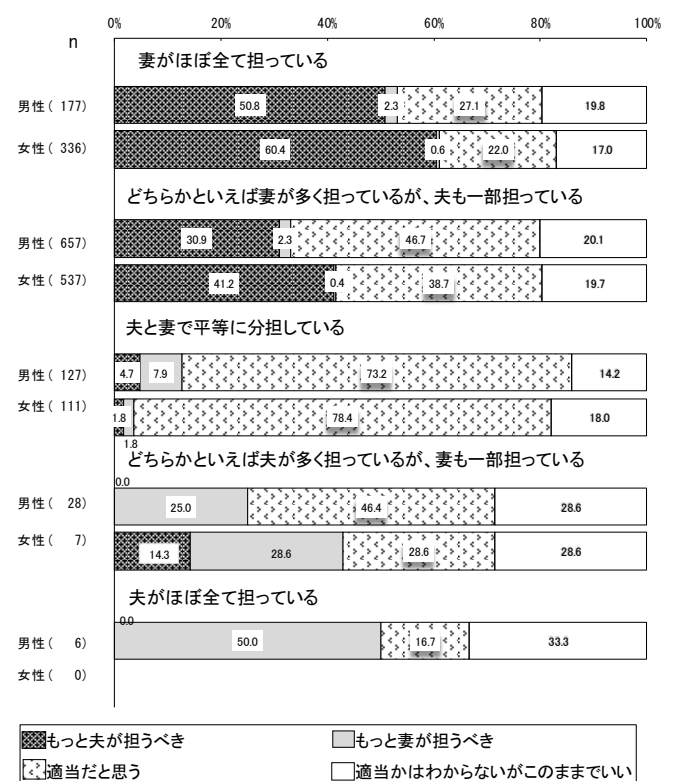
男女の差を見ると女性は【家事】で17.6ポイント、【育児】で9.6ポイント男性を上回っている。

「夫と妻で平等に分担をしている」では「適当だと思う」「適当かはわからないがこのままでいい」の計が【家事】、【育児】ともに男性で8割を超え、女性では9割を超える。(図表 3-3, 3-4)

図表 3-3 家事分担の状況と家事分担割合についての考え— 性別【配偶者有】



図表 3-4 育児分担の状況と育児分担割合についての考え— 性別【配偶者有・未就学児有】

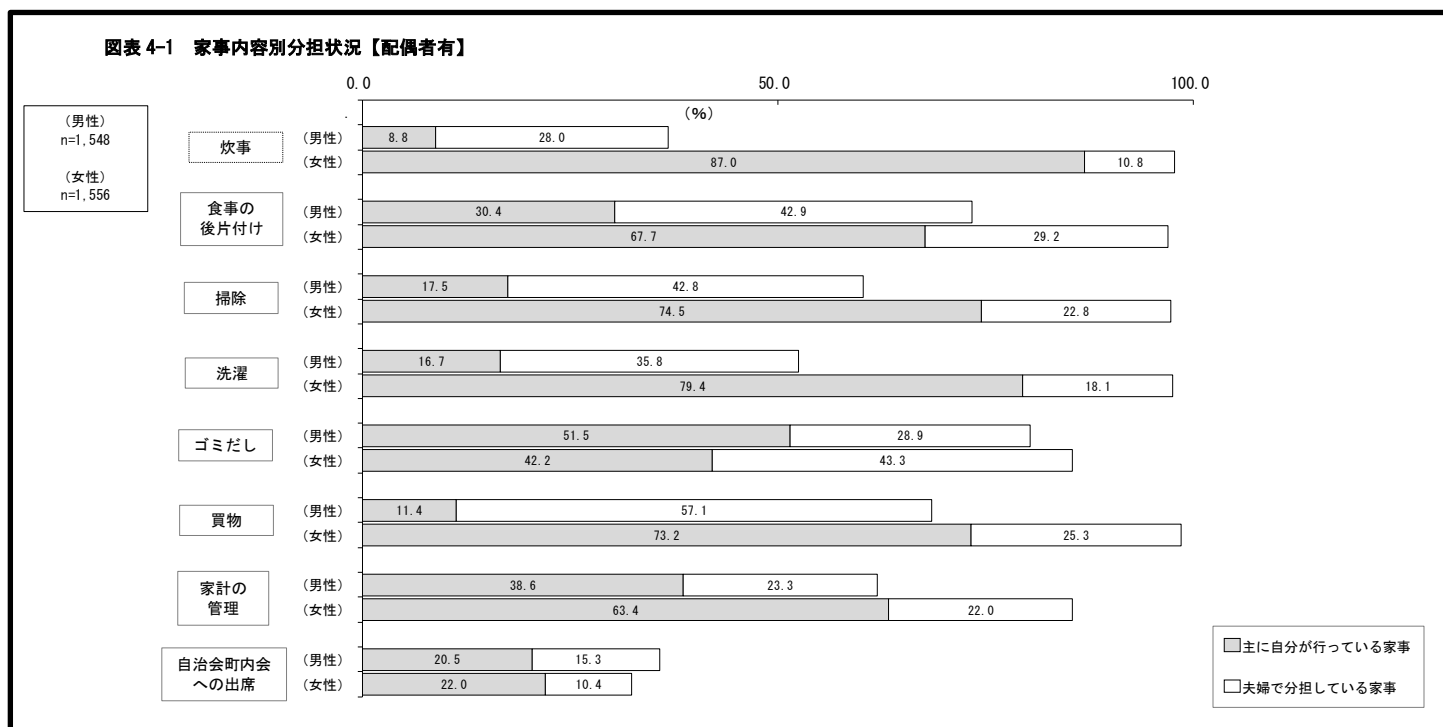


4 夫と妻の家事・育児内容別分担状

主に自分が行っている家事は、「ゴミだし」を除くすべての項目で女性が男性を上回る

家事分担状況を内容別に聞いたところ、主に自分が行っている家事は「ゴミだし」を除くすべての項目で女性が男性を上回っており、その差が大きいのは「炊事」「洗濯」「買物」の順となっている。

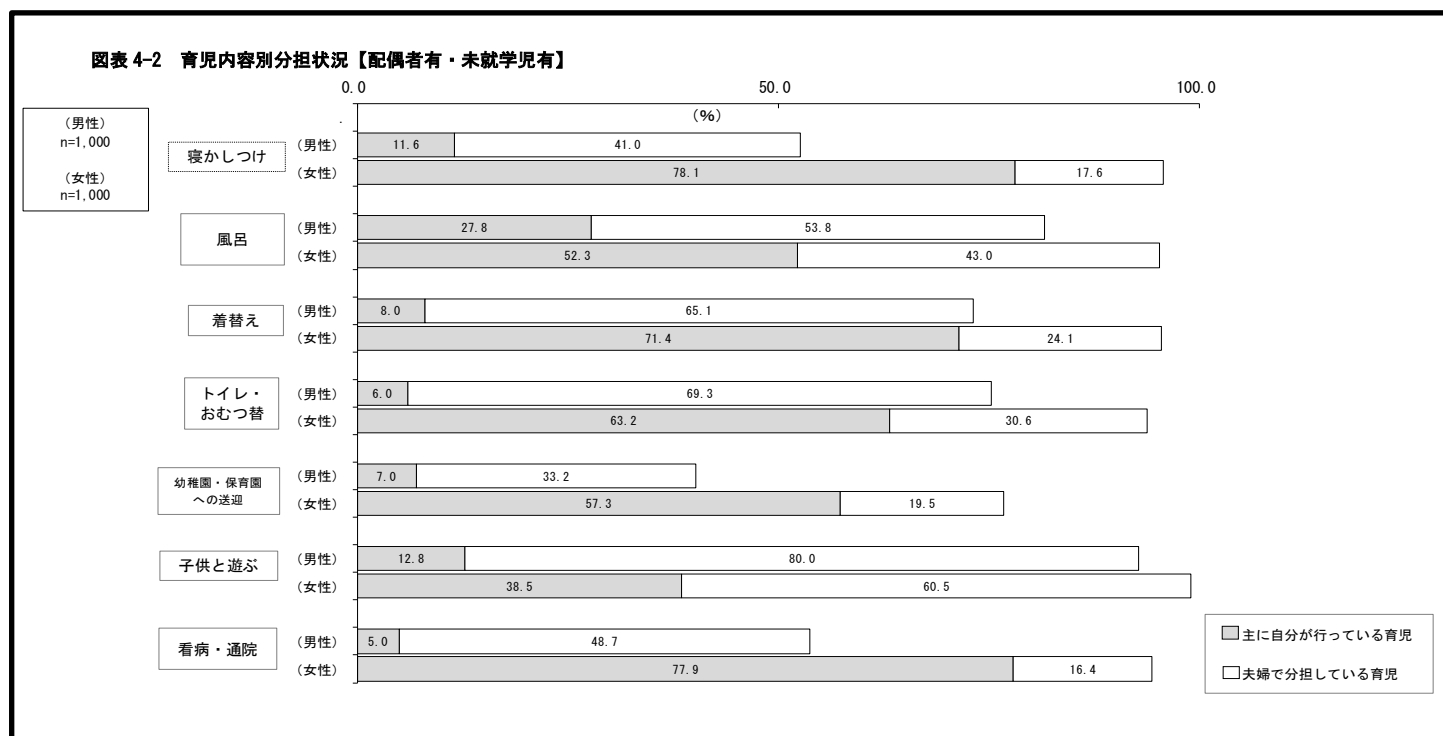
「夫婦で分担している家事」は男性は「買物」が57.1%で最も多く、女性は「ゴミだし」が43.0%で最も多い。(図表 4-1)



主に自分が行っている育児は、全ての項目で女性が男性を上回る

育児分担状況を内容別に聞いたところ、「主に自分が行っている育児」は全ての項目で女性が男性を上回っており、その差が大きいのは「看病・通院」「寝かしつけ」「着替え」の順となっている。

「夫婦で分担している育児」は男性、女性ともに「子供と遊ぶ」が最多で男性は80.0%、女性は60.5%となっている。(図表 4-2)

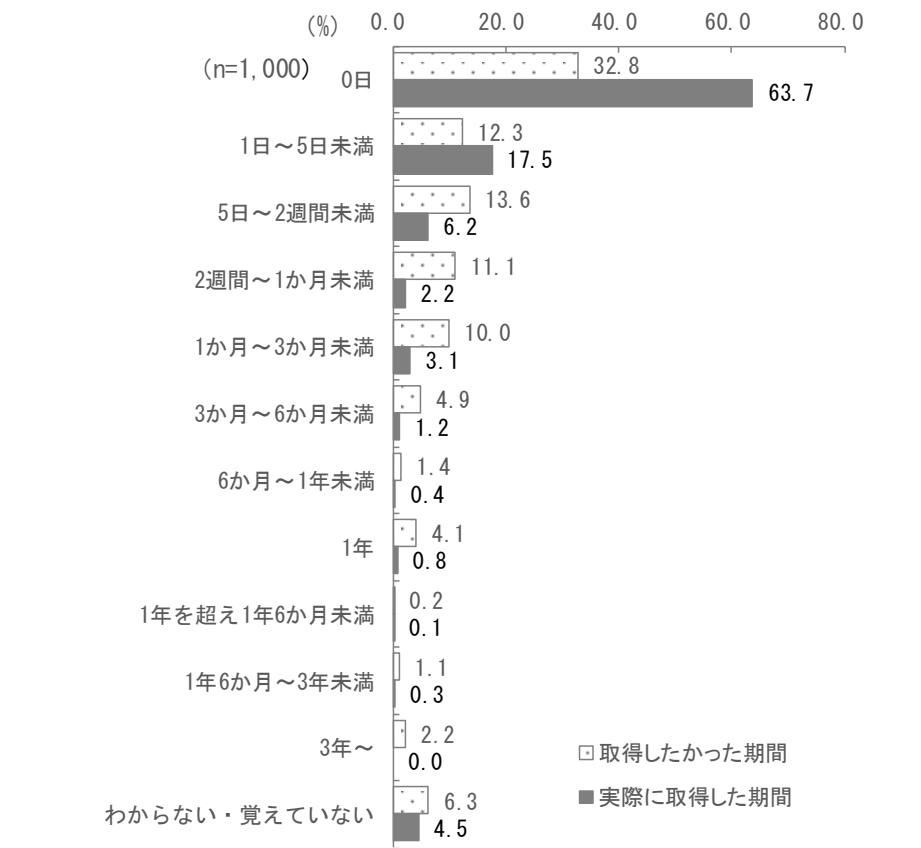


一日以上育児休業等を取得した男性 31.8%、希望通り取得できたのは 16.2%

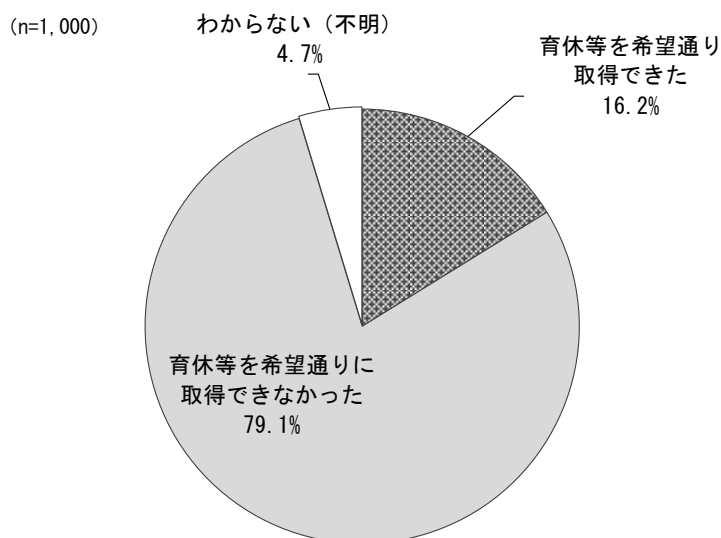
配偶者あり・未就学児ありの男性に、一番最近生まれた子供について、どのくらいの期間の育児休業等
 を取得したかを聞いたところ、一日以上の育児休業等を取得した割合は 31.8%となっている。なお、こ
 こでいう育児休業等は法定の育児休業制度に加えて、個人事業主や経営者等が育児のために自主的に仕事
 を休む場合も含んでいる。(図表 5-1)

育児休業等の取得状況をみると、「育休等を希望通り（又は希望以上）取得できた」は 16.2%、「育休
 等を希望通りに取得できなかった」は 79.1%となっている。(図表 5-2)

図表 5-1 男性の育児休業等取得率【男性・配偶者有・未就学児有】



図表 5-2 男性の育児休業等取得状況【男性・配偶者有・未就学児有】

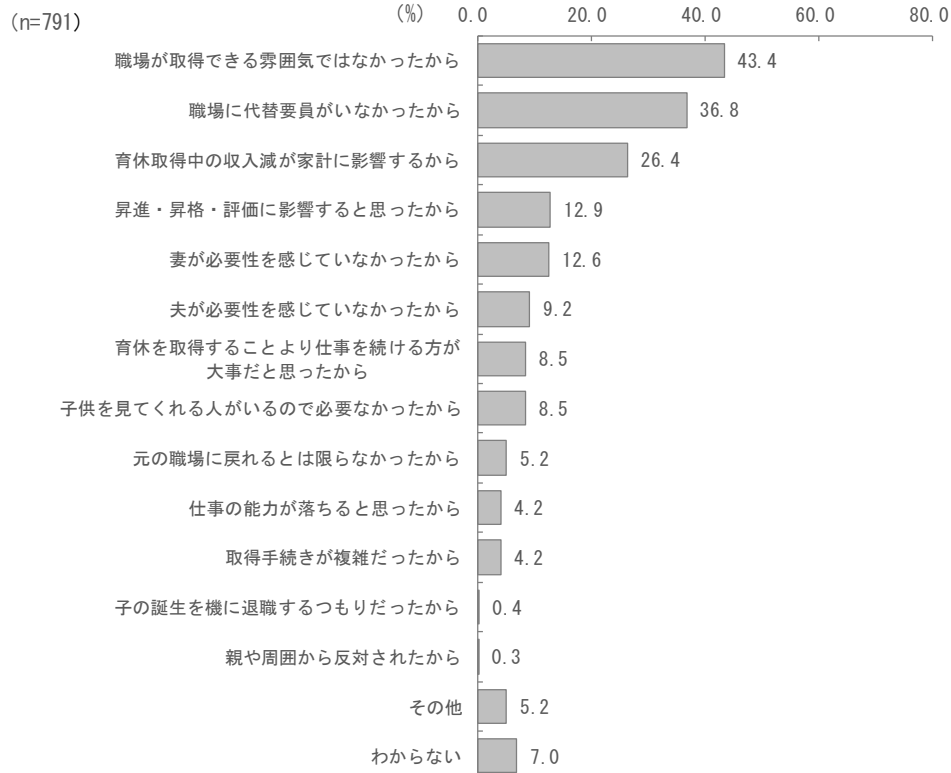


育児休業等を希望通り取得した理由・取得しなかった理由は、ともに「職場の雰囲気」が最多

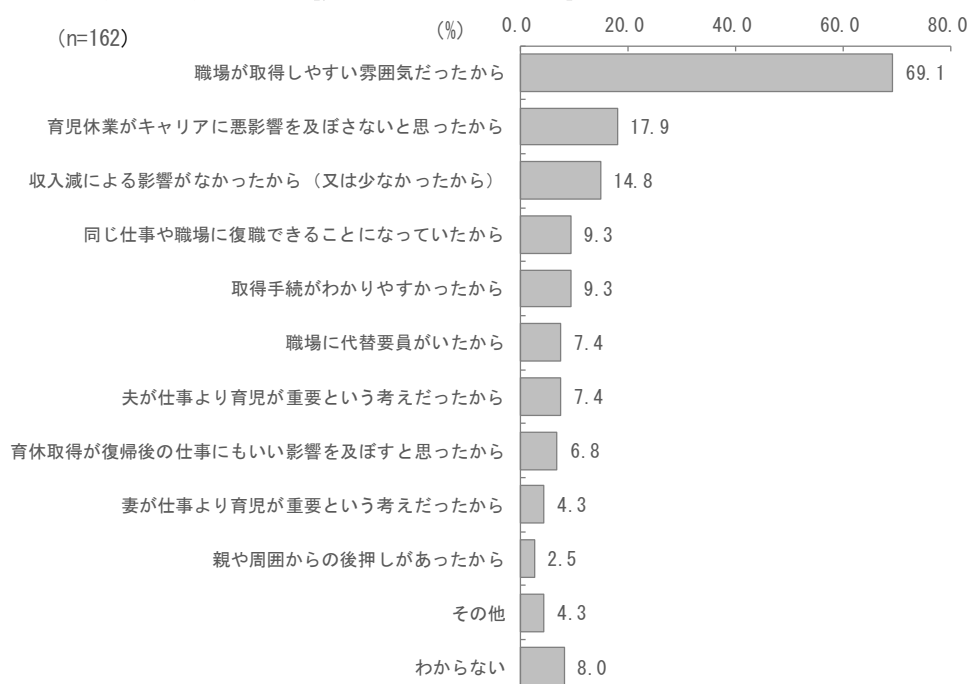
未就学児を持つ男性に育児休業等を取得しなかった（または希望よりも取得した期間が短い）理由を聞いたところ、「職場が取得できる雰囲気ではなかったから」（43.4%）が最も多く、次いで「職場に代替要員がいなかったから」（36.8%）、「育休取得中の収入減が家計に影響するから」（26.4%）の順となっている。（図表 5-3）

育児休業等を希望通り（または希望以上）に取得できた方にその理由を聞いたところ、「職場が取得しやすい雰囲気だったから」（69.1%）が最も多く、次いで「育児休業がキャリアに悪影響を及ぼさないと考えたから」（17.9%）「収入減による影響がなかったから」（14.8%）の順となっている。（図表 5-4）

図表 5-3 育休等を希望通り取得しなかった理由【男性・配偶者有・未就学児有】



図表 5-4 育休等を希望通り取得できた理由【男性・配偶者有・未就学児有】



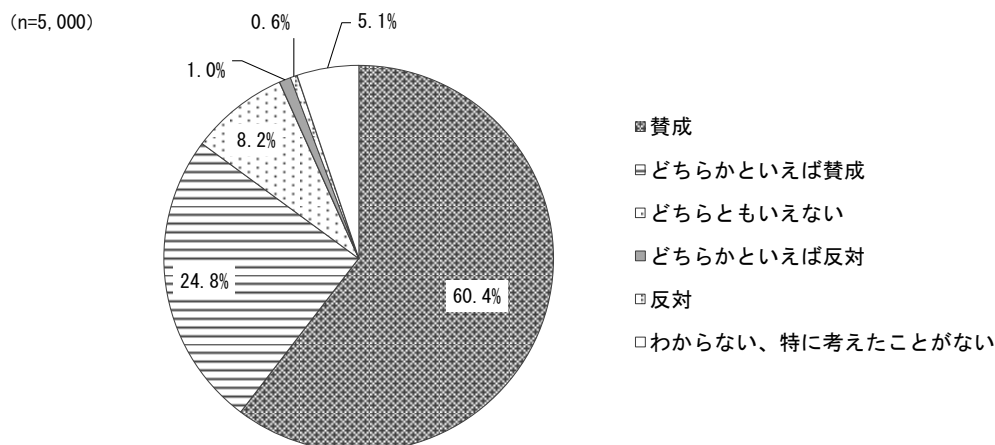
6 男性の家事・育児参画について

男性の家事・育児参画のイメージ「男性が家事・育児を行うことは、当然だ」が約6割

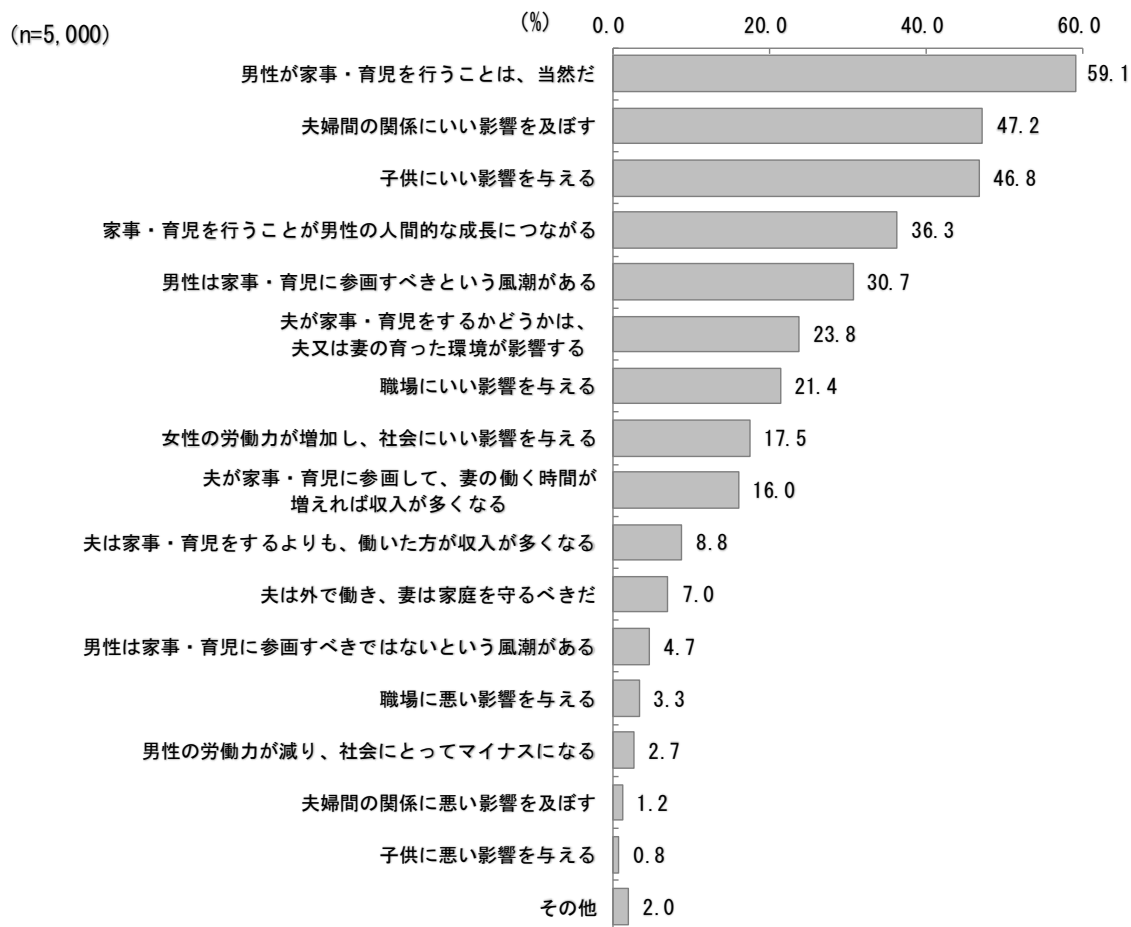
男性が家事・育児に積極的に参画することについて聞いたところ、「賛成」は60.4%、「どちらかといえば賛成」は24.8%で合計で8割を超える。(図表6-1)

男性の家事・育児参画のイメージを聞いたところ、「男性が家事・育児を行うことは、当然だ」が59.1%で最も多く、次いで「夫婦間の関係にいい影響を及ぼす」(47.2%)、「子供にいい影響を与える」(46.8%)となっている。(図表6-2)

図表6-1 男性の家事・育児参画への賛否【全員】



図表6-2 男性の家事・育児参画のイメージ【全員・複数回答】

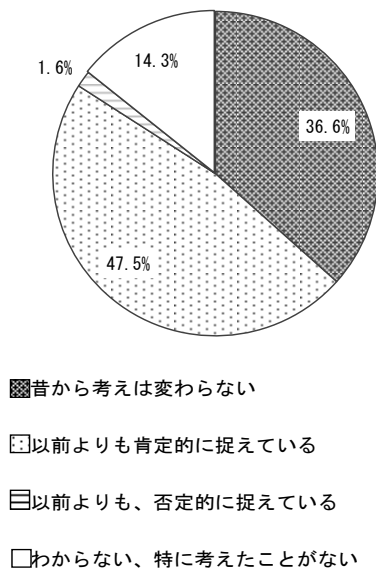


男性の家事・育児参画を「以前よりも肯定的に捉えている」約5割。影響を与えたのは「テレビ新聞等メディアのニュース」が最多

男性が家事・育児へ積極的に参画することについて以前と比べ考え方が変化したか聞いたところ、約5割が以前より肯定的に捉えていると回答。以前と考え方が変わってきたと回答した方に、何が影響を与えたかを聞いたところ、「テレビ、新聞等メディアのニュース」が最も多く42.2%、次いで「職場」(19.1%)、「知人」(19.0%)の順となっている。(図表6-3, 6-4)

図表6-3 男性の家事・育児参画への考え方の変化【全員】

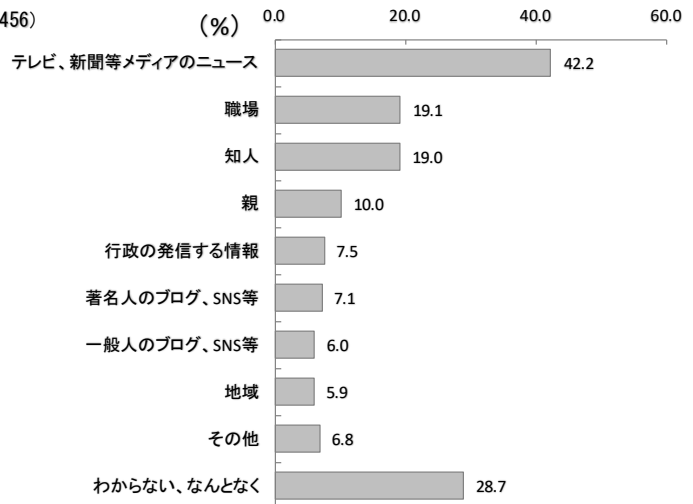
(n=5,000)



図表6-4 男性の家事・育児参画への考え方の変化【全員・複数回答】

(n=2,456)

(%)



男性の家事・育児参画に向けて必要なこと「夫婦や家族間のコミュニケーション」が最も多く「労働環境整備」、「男性自身の抵抗感をなくすこと」が続く

男性の家事・育児参画を進めるために何が必要か聞いたところ、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること」は48.0%、「各企業が働き方改革など労働環境整備を進めること」は46.4%、「家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は46.3%、「男性も家事・育児を行うことは当然である、という考えが社会に広まること」は44.3%となっている。(図表6-5)

図表6-5 男性の家事・育児参画に向けて必要なこと【全員・複数回答】

(n=5,000)

(%)

